

輸血に関する説明業務

◎政木 千恵子¹⁾
春日井市民病院¹⁾

「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律」の成立により、医師以外の医療関係職種に対するタスク・シフト/シェアが推進され、臨床検査技師も様々な分野において更なる飛躍の好機となっている。

本講演では、当院の多職種で行っている術前オリエンテーションの内容と共に臨床検査技師が担っている手術患者への輸血説明について紹介する。

2014年6月から外来通院期間中に術前オリエンテーションをオリエンテーリング形式で行う事業（以下、術前オリオリ）を開始した。背景として、DPC制度導入による入院期間の短縮が手術前日の患者スケジュールを過密にしたことにある。この事業では、患者の手術や入院生活の不安を和らげる事と医師や看護師の負担軽減を目的とし、多職種が入院から退院までの流れや安全への取り組みを順次患者に説明している。

開始当初は外科のみであったが、事業が理解されるに伴い各科の要望も増し、現在では外科、泌尿器科、産婦人科、心臓血管外科が対象となっている。予約枠は1日6件を基本としているが、当日の追加も受けており、各担当者は柔軟に対応している。術前オリオリの件数は初年度（2014年度）では133件に対し、昨年度（2021年度）は465件まで増加しており、需要は年々増加している。

我々臨床検査技師は血液・輸血部門所属の6名が術前オリオリを輪番制で担当している。術前オリオリの流れはコンシェルジュ（看護師）が各担当者（医事課・臨床検査技師・リハビリテーション技師・病棟看護師・手術室看護師・薬剤師）へ順次連絡し、各々が患者のもとへ赴く形とした。術前オリオリは「さくらカウンター」と名称された入退院支援窓口の一角で行っている。この「さくらカウンター」は2018年4月に患者が移動することなく全ての入院前の説明が受けられるように病院1階中央フロアに設置された。ここでは、入院後にどのような治療経過を経るのかをイメージし、安心した入院生活を送れるように入院前から退院後まで切れ目のない支援を行う事を目的として稼働している。

輸血説明は、5分ほどで『血液の組成』『血液製剤の種類』『輸血関連検査』『副反応・輸血後感染症』

『異型適合輸血の可能性』など輸血意思確認書（同意書）の記載内容に沿ってイラストを用いながら説明をしている。さらに専門用語には詳細な解説を加えるなど患者に理解してもらえるように工夫している。

説明後に質問を受け回答しているが、中でも輸血の可能性についての質問が多いため担当者間で情報を共有し、説明前に「今回の手術で必ず輸血すると決まっていません。あくまでも可能性としての説明です。」と伝えるよう統一した。このように患者の質問は記録を取り説明内容を適宜見直し、技師間差が生じないように互いの説明内容の確認も行っている。

術前オリオリ開始後、多職種が自身に特化した内容を受け持つことで医師や看護師の負担が減り、患者に対しては時間的ゆとりを持って手術前説明を行えている。

これからもより業務が円滑にそして専門的な内容が患者へ伝わるように術前オリオリに限らず、臨床検査技師の活躍の場が広がる努力をしていきたい。

今回のタスク・シフト/シェアは臨床検査技師の仕事の幅がより広がり、院内・院外においてより知名度を上げる好機である。臨床において絶対的ポジションを確立し、必要不可欠な存在であり続けていけるように我々臨床検査技師が邁進していけたらと考える。

連絡先：春日井市民病院 臨床検査技術室 0568-57-0057